

WCS用稲の直播栽培技術の実証

要約

直播栽培の収量は、移植栽培の9割を確保できた。水利の良いほ場においては、直播栽培技術は、WCS栽培における省力化効果が高い。直播栽培技術では、雑草防除および苗立ち安定のために、ほ場の均平化が重要である。

○ 展示のねらい

WCS用稲の生産において直播栽培技術を取り入れ、育苗の省略による作業性および収量性を明らかとし、生産組織の今後の規模拡大につなげる。

○ 主な成果

- 10a 当たりロール個数は両直播区とも移植区の9割で、県目標収量5.7個を上回った。
- 10a 当たりの播種～除草剤散布に要した時間は、乾田直播区35分、湛水直播区26分、移植区254分で、直播区は移植区に比べ作業に要した時間が少なかった。

表1 収量

	乾田直播区：70a	湛水直播区：50a	対照（移植）区：60a
播種種子等	無コーティング種子	無コーティング種子	稚苗
品種	つきはやか	つきはやか	つきすずか
播種量	乾粃 4kg/10a	乾粃 3.8kg/10a	乾粃 3kg/10a
除草剤	3回 土壌処理剤 入水前処理剤 中・後期処理剤	2回 一発処理剤 中・後期処理剤	2回 一発処理剤 中・後期処理剤
収量	8.2 ロール/10a	8.2 ロール/10a	9.0 ロール/10a

表2 作業時間

	乾田直播区	湛水直播区	対照区（移植）
播種・移植	播種 11分、鎮圧 9分	播種 20分	移植 40分
育苗			208分 ^(※1)
除草剤散布	15分 ^(※2) ブームスプレー (5分×3回)	6分 ^(※3) ラジコンボート(1分) ブームスプレー(5分)	6分 ^(※4) 背負動力散布機
計	35分 (移植比△219分)	26分 (移植比△228分)	254分

(※1) 農林水産省統計部「米生産費調査」、(※2, 3, 4) メーカー性能表から試算

○ 今後の方向性

- 直播栽培技術は、規模拡大を図るコントラクター等に導入を推進していく。
- 直播栽培技術では、雑草防除および苗立ち安定のために、ほ場の均平化が重要となる。
- 直播栽培技術では、生育初期に加え、必要に応じて後期の雑草防除も必要となる。
- 直播専用機の導入が必要。

実施機関：上都賀農業振興事務所経営普及部 実施場所：日光市

問合せ先：栃木県農政部経営技術課技術指導班 TEL 028-623-2322 FAX 028-623-2315